

子どもたちの幸せのために 『負けじ魂』で挑戦を続ける

山形県最上郡舟形町立長沢小学校校長

渡辺

正

さん 創価大学教育学部卒業

創価大学は、教員採用試験で毎年二〇〇名以上、のべ五九〇〇名を超える合格者を輩出し、二〇〇八年には、教職大学院を開設しました。「教育の目的は子どもたちの幸福」とする創価教育の教員養成プログラムは内外から高い評価を受けています。

緑濃い山々とゆつたりと流れる川、そして温泉と豊富な野菜や果物—山形新幹線・新庄駅から車で二〇分、渡辺正さんが校長を務める舟形町立長沢小学校はそんな中にある。二〇〇二年、町内の西ノ前遺跡から、縄文中期のものと見られる国内最大級の土偶「縄文ヴィーナス」が出土し、以来「若あゆと古代ロマンの里」が町のキャッチフレーズだ。



わたなべ・ただし／一九五七年、山形県最上郡舟形町生まれ。七六年三月山形工業高校土木科を卒業。同年四月、創価大学教育学部に入學。八〇年三月同大卒業。同年四月山形県に小学校教諭として採用される。教諭として富長小・沼田小・曲川小木の根坂分校 昭和和小・堀内小で教鞭をとり、牛蒡小・舟形小で教頭を務める。二〇〇八年四月より現職。

Tadashi Watanabe

東日本大震災では際立った被害こそ受けなかったが、町の人々は近隣の甚大な被害に胸がふさがれるような思いで暮らしているという。それは、子どもたちも例外ではない。

「被災した人たちに思いを巡らすこと、そして、復興の役に立つ人間になれるよう、今は、一生懸命、力をつけようと子どもたちに話しています」と語る渡辺さん。NIE実践校である同校では、「震

校長室で。机の上には土偶、通称「縄文ヴィーナス」のレプリカが置かれている(右手)。

災を語り継ごう」をテーマに新聞記事を集めたり、新聞に投稿したり、節電や募金に協力したりと、自分たちにできることを見つけて活動を続けている。山形新聞では「困っている人を助け日本を守りたい」「早くいづもどおりの学校生活を送れるようになってほしい」との児童の声を紹介された。

渡辺さんは舟形町に生まれ育ち、山形工業高校土木科から創価大学に教育学部一期生として入学。山形大学に通っていた先輩に「夜学でも通信教育でもいいから大学で学ぶべき」と励まされて受験、見事合格。

の教育理念などを研究する「私立大学研究会」に所属し部長を務めた。創価大の建学の精神の意味を考え、友と熱く語り合ったことも良い思い出だという。

「校舎玄関のブロンズ像にある『英知を磨くは何のため君よそれを忘るるな』『労苦と使命の中のみ 人生の価値は生まれる』という創立者の言葉が私の原点です。そして、『負けじ魂』です。負けじ魂で挑戦し続けることが大切だと思っています」



創価大学の創立者・池田大作先生は、平和や人権などをテーマにトインビー博士やアンドレ・マルロー氏、ローマクラブのベッチェイ博士など、世界の学識者との対話を半世紀以上続けている。2008年8月、米国の伝統ある教育研究

機関ジョン・デューイ協会の歴代会長・ガリソン博士とヒックマン博士が来日。創立者と両博士は「人間教育への新しき潮流」をテーマに語り合った(写真)。また、同協会第一号となる終身名誉会員証が創立者へ授与された。